

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
子どもの保健 I Child Health I		1年	通年	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
4単位	講義	選択	(保育士養成課程必修)	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長谷川久美子	講義棟 1 階	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
子どもの心身の健全な発育・発達を支援するために、①母子保健行政との関わり、②家庭・地域社会その他関係諸機関との連携、③養護や保育、④病気や障害を持った子どもたちの理解と対応、⑤発達過程を踏まえた個々の子どもと子ども集団全体の保健的対応、⑥現代社会の健康問題や課題を主たる授業内容とし、基礎的な医療的知識とともに子どもの健康と安全に関する知識の習得を図る。				
授業の目標				
①子どもの心身の健康維持・増進を図る保健活動の意義を証明できるようにする。②子どもの身体発育や生理機能および運動・精神機能の発達について説明できるようにする。③子どもの健康と疾病、疾病の予防について関連付けることができるようにする。④子どものこころの健康とその課題について述べるができるようにする。⑤保育環境および衛生・安全管理について創意工夫することができるようにする。				
授業の方法				
講義、事例紹介、保健関連の最新情報、ニューストピックスなどを取り入れて知識の習得を図る。 質疑応答において発言を求め、活発な意見交換をする。				
学習の成果（学習成果）				
①子どもの心身の成長過程のなかで、小児各期の形態や機能的な特徴を説明することができる。②子どもの保健領域は養護、福祉、保育、看護、教育など多分野にわたり、発達支援や健康支援と関連することを理解できる。③看護・医療分野の基礎的な専門知識の習得を図ることができる。④子どもの健康が、家庭や地域社会と密接な関係にあることを理解できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスに沿って概要説明）			
第2回目	子どもの健康と保健の意義①	保育における保健活動		
第3回目	子どもの健康と保健の意義②	健康の概念と健康指標		
第4回目	子どもの健康と保健の意義③	子どもに関わる諸統計		
第5回目	子どもの健康と保健の意義④	子育て支援の現状と地域保健活動		
第6回目	子どもの発育・発達①	生物としてのヒトの成り立ち		
第7回目	子どもの発育・発達②	発育・発達の原則		
第8回目	子どもの発育・発達③	発育の特徴		
第9回目	子どもの発育・発達④	乳幼児各期の身体発育		
第10回目	子どもの発育・発達⑤	身体発育の評価		
第11回目	子どもの発育・発達⑥	生理機能の発達—脳の発達・生命現象		
第12回目	子どもの発育・発達⑦	生理機能の発達—体温・呼吸機能・循環機能他		

第13回目	子どもの発育・発達⑧	運動機能・精神機能の発達
第14回目	子どもの発育・発達⑨	乳幼児・学童の運動発達
第15回目	子どもの発育・発達⑩	運動機能・精神機能の発達評価
第16回目	子どもの健康と疾病①	子どもの健康と健康状態の観察
第17回目	子どもの健康と疾病②	疾病の支援体制
第18回目	子どもの疾病①	子どもの病気の特徴
第19回目	子どもの疾病②	感染症—感染症予防法と感染症の分類
第20回目	子どもの疾病③	感染症—感染症の予防対策
第21回目	子どもの疾病④	子どもの感染症—ウイルス感染
第22回目	子どもの疾病⑤	子どもの感染症—細菌感染
第23回目	子どもの疾病⑥	予防接種
第24回目	子どもの疾病⑦	アレルギー疾患
第25回目	子どもの疾病⑧	先天性疾患
第26回目	子どもの疾病⑨	子どもの主な病気（疾患別）—1
第27回目	子どもの疾病⑩	子どもの主な病期（疾患別）—2
第28回目	子どものこころの健康	子どもの生活環境と心の健康
第29回目	子どもの環境と保健	子どもの事故の現状と安全対策
第30回目	健康および安全への取り組み	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	授業で使われる教材を準備して授業に臨んでいる。授業に集中し、ノートをきちんととっている。不明な点は質問したり、自分の意見を明確に述べるができる。
レポート	10%	詳細に課題を探究し、内容構成もしっかりしていて課題の要件を満たしている。
調査報告書		
小テスト	10%	設問5題程度で実施し、授業内容を明確に説明することができるか知識の習熟度を確認する。
試験	70%	設問内容の要件を満たし、授業内容が明細に述べられている。学期末試験の評価基準C（60－69）以上とする。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：「子どもの保健Ⅰ」学建書院 母子健康手帳 参考図書・参考資料：授業の中で適宜指示またはプリント配布		
履修上の留意点・ルール		
目的意識・課題意識を明確にして授業に臨む。		